

料金後納

ゆうメール

(株)育脳寺子屋MAC 本部教室 MAC真成熟
〒616-8156 京都市右京区太秦西野町20
電話: (075)871-0374 FAX: (075)882-3777

2019 年
12 月号

Mathematics Abacus Chinese character

MAC NEWS

お子さんが大人になった時、社会で活躍できるヒントがいっぱい！！

**MAC NEWSとトライアルの感想文は、
MACとご家庭の「意思疎通」
～毎月の感想文の提出、心より感謝致します～**



日頃は育脳トライアルが終了後、感想文の提出にご協力いただきありがとうございます。提出いただいた感想文は必ず目を通しています。(毎回楽しみにしながら拝見しています)最後の行までギッシリご記入頂いている方も多く、本当に感謝しております。

今更ですが、感想文をお書き頂いている理由は大きく2点です。

- ① お子さんと一緒にトライアルを見返して、答えが一つでない問題に対して、「うちの子はこんな答えを書くのか～」と感じて頂きたい
- ② お子さん本人からしたら、自分がひと月かけて取り組んだテキストを親が見てくれて、感想を書いてくれたら「ちゃんと見てもらえている。次も頑張ろう」と、次の1冊へのモチベーションアップに繋がる

今回はご提出頂いた感想文から、「他のご家庭にも関係するな」と感じたものをいくつか抜粋し、紹介させて頂きたいと思います。

保護者欄

いつもありがとうございます。

当日、トイアルを見せただけで、~~送らせてあげた。~~ 送らせてあげません。

夏休みに入り、色々な事がんばって、~~でも~~ でも好きな事する分、しんどいけど

先生にご迷惑をおかけして申し訳ありません。今日もおしくお過ごしください。

「内容を見てコメントを書くには時間が必要だから、前もって出して」と伝えているにもかかわらず、直前に出したから書かなかったとご記入頂いています。(つまりその日、その生徒は90分授業をせずに座っていたことになります)

そうなることを分かった上で「そのまま先生に報告しておいで」と伝えてくださった親御さんに感謝いたします。

恐らく本人は「塾行くまでに出したやん」と思っているかもしれませんが、そこには相手(家族であっても)に対する思いやりが欠けています。相手が内容を見て、書く時間のことを考えていないのです。もし前もって出すという約束をしていたのに、直前で出してきた時、

「も～、感想文の時は早めに出して言ってるでしょ～」

と言いながらもその場でパパッと書いてしまえば、恐らく子供はそれ以降前もって出すことはなくなります。今回これが通用したから、これからはそれでいいわ!と思うのです。

たまに感想文に「子供が言うことを聞きません」と書かれていることがありますが、上記のように子供が約束を破ったのに、「仕方ないなあ」というような対応になっていることはないでしょうか?

以前のMAC NEWSでも書いたことがありましたが、子供は『親の覚悟』を見ています。口ではああ言っているけど、結局はそうしない。と思うと、親の言うことを聞かなくなります。

子供とした約束は、約束を破った場合どう対処するかまで決めておき、破った際にはそれは絶対に実行する「覚悟」が大切です。

保護者欄

お世話になっております。

今回のMACニュースを読みました。ゲームに関しては本当に私も頭を悩ませています。お天気が良く近所のお友達と外で遊ぶ時は鬼ごっこをしたりドッヂボールをしたりするのはいいでしょう!と言いつけながら色々ことをして遊んでいるのですが、雨降りの日は家で遊ぶ時はゲーム以外何をして遊んでもいいかわからないと思います。私たちが子どもの頃にもゲームはありましたが、友達と家でゲームをして遊んでいた頃にはありません。ゲームに費やす時間が長いと負の強しに心が全く無意味になるということには驚きました。もう一度親子でゲームの時間レベルについてしっかり話し合いたいと思います。

以前のMAC NEWSでゲームとの関わり方について書いた際に提出頂いた感想文です。

『たとえ2時間ほど勉強をしても、3時間ほどゲームやスマホ・タブレットなどを使用していれば、全く勉強していない子よりも成績が悪くなる』という調査結果が出ています。(東北大学 川島隆太教授『スマホが学力を破壊する』集英社新書より)

最近では、子供達が公園で向かい合いゲームをしている光景をよく目にします。家だと親にガミガミ言われるので、外で友達と一緒にゲームをしているのでしょう。

以前は警察の見回りも、繁華街中心だったのが、最近ではフリーWifiが繋がる場所へとシフトしているのだとか。(家では制限をかけていても、フリーWifiが繋がる場所でネットに繋いでいる場合が多いのです)

今の時代ですので、ゲームやスマホ、タブレットなどの使用を全く無し!というのは難しいかもしれませんが、必ず厳しめのルールが必要です(そのルールも一方的に決めるのではなく、本人との話し合いで納得させ決める必要があります)

そしてその約束を破ったときにはどうするかも事前に決めておき、実際に破ったときは「覚悟を持って」そのペナルティを負わせるべきだと思います。

今からでも遅くはありません。ゲーム・スマホ・タブレットの使用についてのルール決め、再度ご家庭で話し合ってみてください。

保護者欄	毎日 同じことも コツコツすることが苦手です。子供にも、自分が できないのに やりなさいと 言えずにいました。
	しかし、子供の勉強に 反復練習が 必須だと感じ、(習った時は できても、次の単元にいくと 忘れていたので、まとめテストの時に解けない)
	1日1ページずつ、問題を ずらすことにしました。(2,3問) 同時に私も、毎日 やることを少しだけ決め、コツコツ一着にしています。
	子供の学校のテストは 少し点が 安定してきました。私には、やり取り 丁寧に サボってしまうのですが、2人で 糸巻いています。何よりも、糸巻いていることに 自信がつくように 思います。

「子供は親の言うとおりにほしないが、親のする通りにほする」

アメリカの著述家、ジョセフ・マーフィー氏の言葉です。

このご家庭では子供に「～しなさい」と言うだけではなく、親子で一緒にコツコツ頑張ることを続けて下さっています。その甲斐もあり、成果が少しずつ見え始めています。

大人であっても、何事も完璧に100%を求めるのは難しいです。続けていることをたまにはサボってしまうこともあるでしょう。しかし、その時に「一回サボったし、もういいわ!」と思って辞めてしまうのか、「よし、もう一回頑張ってみるか!」と思い再開できるかで、その後に大きな差が出るのは言うまでもありません。

そんな経験を親と一緒にできるのは、子供にとってはこれ以上無い良い勉強です。

どんなことでもいいので、ぜひ『親子で一緒に続ける』こと、始めてみてください。

・ ・ ちなみに私もこの MAC NEWS を書くことは頑張ってコツコツ続けています。毎月題材を考えながら、A4 用紙 6 ページの文面を書くのは結構大変なのです・ ・ (笑) 元々は読書なんて大嫌い人間でしたが、今では毎月本を 3 冊ほどは読むようになりました。

子供たちに偉そうに「自学・自習しなさい!」と言っているのですが、私も口だけにならないように様々な分野のインプットを続け、生徒達には勉強以外のことも数多く伝えていけるようにします。

どのご家庭も「我が子は国語が苦手！？」

「うちの子は国語が苦手です」「書く文章が意味不明です」「漢字が苦手です」・・・

小・中学生の親御さんと話していると、かなり高い割合でこのような話題が出ます。私も子供たちと接していて、今の子供達は国語が苦手な子が多いように感じます。

生徒同士の会話を聞いていても、私には意味が分からない？？というような言葉のキャッチボールなのに、生徒同士はわかり合っているようなリアクションです。

ちなみに最近の子は嬉しい時も、悲しい時も、暑い時も、寒い時も、美味しい時も、不味い時も・・・どんなときも「ヤバい」と表現します（笑）

今の子供達が、国語が苦手な理由は大きく分けて2個あると思います。

まず一つは 情報を得る機会がほとんど映像と音声中心になった という点です。

今はテレビ・パソコン・スマホ・タブレットなどで情報を得る時代になりました。それは便利な反面、映像と音声で楽に情報を得られるので「自ら文字を読んで、情報を取りに行く力」を伸ばしにくくなりました。

活字から情報を読み取るトレーニングをしていないので、計算はできるのに文章題になった瞬間、思考が停止し「意味が分からん」になるのです。

小学部の3年生以上が取り組んでいることばのワークというテキストに「読んで覚える」という問題があります。短い文章が書かれていて、それを読んで頭に思い浮かべて覚えておいて、次のページの設問に文章は見ずに答えるという問題なのですが、子供たちはみんな苦手なようです。映像や音声で説明されたら分かるけど、文字からその情景やその場面を具体的にイメージする力が弱いのです。

これからは、極力映像から情報を得る機会を減らす努力が必要なのではないでしょうか。

そして二つ目は「様々な年代の大人と会話する機会が減った」という点です。

国語の専門家である出口汪先生は「国語力をつけるには、様々な年代の人の会話を聞くことが一番」と仰います。大人の会話を聞いていれば、意味の分からない言葉がたくさん出てきますが、前後から推測するなどしながら、話している内容を理解しようとしています。（「子供の頭がグンと良くなる！国語の力」出口汪 水王舎より）

以前は親戚の集まりで、様々な年代の大人が集まり、ワイワイと話す機会が多くありました。今では実家に帰省することはあっても、以前のように親戚が集まるような機会はめっきり減ってしまったように感じます。もし親戚で集まったとしても、大人は大人でワイワイと話し、子供は子供で集まりゲームに興じているのではないのでしょうか？

このように、「勉強と思わず、勉強できる環境」が今は減っているのです。

国語力は「他者意識」が無いと伸ばせない

保護者欄

いっもお世話になりました。ありがとうございます。
今回のトライアルも楽しく拝見させていただきました。
「倉」作対話」は少し戸惑ってしまったので、何度も書き直しをした様でした。
昔は（私が小学生の時）お友達と遊ぶのにもお家の電話によくかけました。今はゲーム内でオンラインで直接やりとりをしたり、携帯を持ち始めると親を仲介する必要がなくなってしまう。昔は自然と身についた「目上の人に対する言葉づかい」や「自分の伝えたい事の話方」など、対話をする事自体が減っている今、色々な所へ行き、たくさんの人と交流できる機会を親である私たちが積極的に作っていかないと、なかなか身につかないのかな...と思いました。

先述のように出口先生は「国語力をつけるには、様々な年代の人の会話を聞くことが一番」と仰っていましたが、この感想文を書いて下さったお母さんの考え、まさに大正解なんです！！

ところで、コミュニケーションが大切なのは分かるけど、なぜ親子ではなく、様々な

年代の人の会話を聞くことが一番なのでしょう。

それは、家族（家族以外でも気心の知れた相手）だと、短い単語や省略した表現でも意思が伝わってしまうからなのです。例えばご家庭でこんな会話は多くないですか？

「宿題した～？」「まだ～」 「早くお風呂入ってよ～」「わかってる～」

しかし、残念ながらこれは会話とは言えません。MAC でも授業中に生徒が、

「先生、トイレ～」「先生はトイレちゃうよ！！」「先生、トイレ貸してください～」

ある日なんてひどかったのが、雨が降ってきた窓の外を見て生徒が、

「先生、降ってきた～！！」「先生は空から降ったりしない！！」「雨が降って来た～」

どちらの例も、主語や述語が抜けているので文面だけでは意味が分かりません。実際にその場にいたら、何を言わんとしているのかは理解出来ますが、その都度正しい日本語に言い直させています。

このように、家族や気心の知れた相手だと正しくない文法（これで分かってくれるだろうという他者意識の無い日本語）でもなんとなく伝わってしまうのです。しかし、そんな会話しか経験していない子がいざという時に正しい日本語が使えるかと言えば、難しいのではないのでしょうか。

だからこそ、「様々な年代の人の会話を聞いたり、コミュニケーションを取る」機会ができれば、ちゃんと話さないと伝わらないという他者意識を持った話し方を意識できるようになります。

我が子は国語が苦手だわ・・・と感じられるご家庭では、国語の問題集や本を大量に用意して与えるよりも、日頃の家族間の会話を見直すこと、様々な年代の人と会話する機会を意識的に作ることが一番効果的ではないのでしょうか。

今のうちにそれをしておかないと、将来大人になったときヤバイですよ～（笑）

みなさんは「国語」得意ですか？

あなたは「国語が苦手」「文章を書くのが苦手」「問題文を読んでも意味が分からない」なんてこと、ありませんか？

国語力を上げるには「他者意識」が大事

あなたは日頃から「ヤバい」を口にしていませんか？最近では嬉しい時も、悲しい時も、暑い時も、寒い時も、どんな感情も「ヤバい」の一言で表現する人が多いですが、それで自分の思いが相手にしっかり伝わっているのでしょうか？

そのような感情語（ヤバいとかウザいなど）は、自分の思いを相手に適切に伝えることができません。そのような話し方をしていると国語力を上げることはできないので、国語がどんどん苦手になってしまいます。

国語力を上げるには、どんな年代の人にも伝わるように、日頃からちゃんとした話し方をする必要があります。そのような意識を「他者意識」と言います。その意識を持つことが国語力を上げることに繋がるのです。

国語が苦手な人は、問題集をこなすより、様々な年代の人の会話を聞いたり、コミュニケーションをとる機会を作ってみて下さい。そうすれば自然と国語力が向上しますよ。



偉人の名言

「国語力をつけるには、様々な年代の人の会話を聞くことが一番。」

出口 汪 ～現代文のカリスマ予備校講師～

自分の部屋の目立つところに貼って、読み返すようにしましょう。